

**Simen Sætre and Kjetil S. Østli**  
**シーメン・セートレ、ヒエティル・S. オストリー**

ノンフィクション  
物語形式ノンフィクション



The New Fish. The Global History of Salmon Farming  
新しい魚—サーモン養殖の世界史

*Den nye fisken. Om temmingen av laksen og alt det forunderlige som fulgte*

Cappelen Damm 2021  
453頁 Pages  
ISBN: 9788243012363  
英語サンプル翻訳有

Simen Sætre シーメン・セートレ（1974年生まれ）：多くの言語で出版歴のある調査報道記者。国際的なチョコレート産業、石油国家、アフガニスタンにおけるノルウェー軍のスパイなどをテーマにした6冊の本を上梓。示唆に富む著書は高く評価されており、複数の賞にノミネートされている。

Kjetil S. Østli  
ヒエティル・オストリー（1975年生まれ）：Aftenposten紙の発行する別刷週刊誌「A-magasinet」のジャーナリスト。アルネ・ヘストネス賞とNTBの言語賞を受賞しており、長年にわたりノルウェーの出版社から声がかかっている。『Cops and Robbers』でついにデビューを果たし、名誉あるブラーグ賞も受賞。

1970年代初め、世界の人口に見合うだけの食料をどのように生産できるかを研究していた科学者たちがいた。彼らは海に注目した。ノルウェーとスウェーデンの41の川に生息するサケの遺伝子を採取し、より太く、よりおとなしく、より早く成長する新しいサケを設計したのだ。これが新しい産業、サーモン養殖の始まりだった。

この産業は、ノルウェー沿岸からスコットランド、カナダ、オーストラリア、アイルランド、チリ、アイスランド、フェロー諸島へと広がっていった。雇用が創出され、ビジネスは好調、サーモン養殖家は大金持ちになった。サーモン寿司も世界中に広まった。しかし、この新しい魚が自然界に放たれた途端、予想外のことが起こり始めた。野生のサケ資源は消え、養殖場では病気が蔓延し、サケジラミが大量に発生し、新しい産業は激しい競争にさらされた。

著者らは5年間にわたる調査で、サーモン産業を詳しく検証した。本書では、サーモン養殖の世界史が初めて語られる。その結果は、ノルウェー、カナダ、アイスランド、チリで書かれたネイチャー・ライティングと、古典的な暴露の手法や人物重視の文学的ノンフィクションが融合したものだ。著者はまず、ある疑問を投げかける。新しい動物を海に入れるとどうなるのか？ 本書はその答えを教えてくれる。

**FOREIGN SALES**

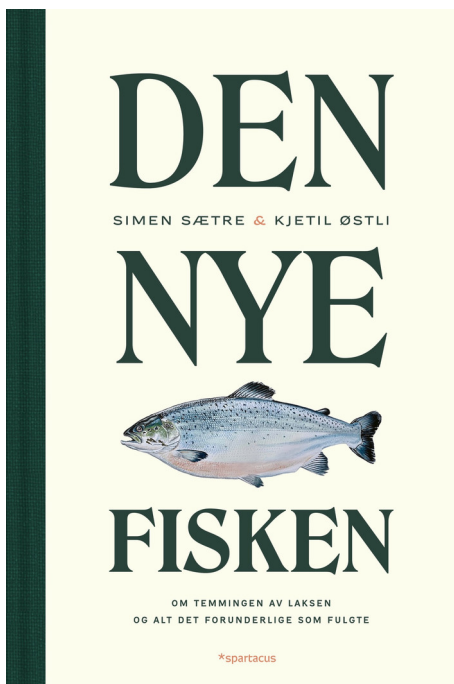
China, Finland, United Kingdom, United States

**RIGHTSHOLDER**

Cappelen Damm Agency  
NO-0055 Oslo  
Tel: +47 21 61 65 00  
foreignrights@cappelendamm.no  
www.cappelendammagency.no

**VIDEO**

[YouTube](#)で著者のプレゼンテーションをご覧ください



' (...) ノルウェーのサーモン養殖という何十億ドル規模の産業を見直すために、大いに必要とされる本だ。しかし、それ以上に、人間が自然を支配しようと邁進する冷笑的で時には無頓着な行動について、刺激的でよく書かれた物語でもある。'

パトリック・スヴェンソン、世界的ベストセラー『The Book of Eels』の著者